

日本大学大学院教授・脳外科医 林 成之氏

ビジネス〈勝負脳〉

著者は語る

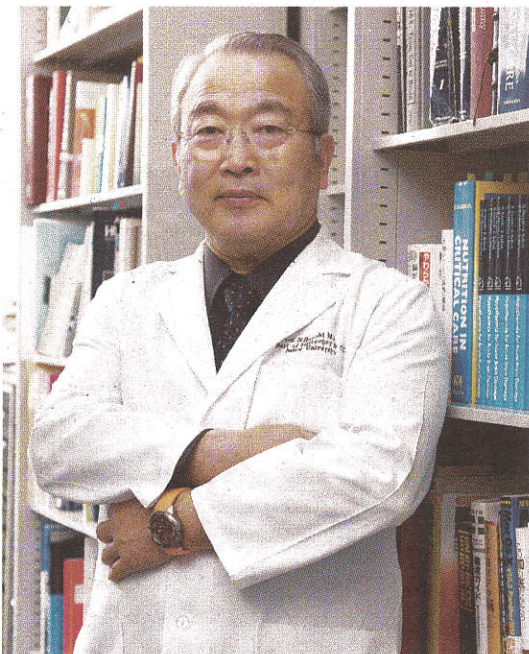
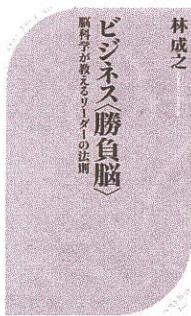
脳神経外科医の私は、40年余り臨床の最前線で人間の脳と向き合ううちに、脳に関してさまざまな研究成果を得ることができた。「脳の本能」を利用した組織づくりや上手な記憶の仕方など、脳の仕組みを知れば飛躍的に効率をあげられる方法論をいくつも開発してきた。

そのノウハウを北京オリンピックの日本代表競泳チームに伝授した。それが私の提唱する「勝負脳」で、目的を達成する方法である。結果は北島康介選手がオリンピック2大会連続、2個の金メダルの獲得、世界新記録、五輪新記録を記録し、チーム全体では51.8%が自己新記録を達成した。

本書はその「勝負脳」を、ビジネスマンのために解き明かした。これからのビジネスマンに必要なのは、社会の中で「勝ち」をとり、自分も周囲をも幸せにする社会を築く力だ。

そのために必要な「脳の力＝ビジネスマンのための勝負脳」

▷ベストセラーズ
▷730円



はやし・なりゆき 日本大学医学部、同大学院医学研究科博士課程修了後、マイアミ大学医学部脳神経外科、同大学救命救急センターに留学。1993年、日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター部長。2006年、日本大学総合科学研究科教授。08年、北京五輪の競泳日本代表選手に「勝つための脳」について講義。69歳。富山県出身。

「本能」生かして「脳力」発揮

を、本書では具体的に「自分に勝つ力」「理解する力」「指導者としてのカリスマ性」「独創的思考能力」「人間力」「過去の体験や訓練を活かす力」とい

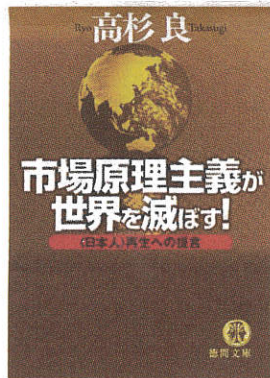
う6つのメソッドに分けて解説している。ビジネスや人生において真の勝者となるには、単に経験を積み、がむしゃらに頑張ればい

い、というわけではない。もちろん成績が優秀ならばいいわけでもなく、他人の成功例をまねるだけでも不十分である。人を育て、すばらしい組織を

構築し、ビジネスを成功させていくためには「立場や意見の違いを認めながら共に生きていく」という脳の基本機能を大切に、どのようにしたら人間は最高の脳力を発揮できるかを科学的に知っていなければ、その力を十分に引き出すことができない。

現在リーダーの立場にある方にも、これからリーダーを目指す方にも、本書でそれを知ってもらいたい。

市場原理主義が世界を滅ぼす！ 高杉良著



日本はモノづくり国家であり、戦後一貫して、この国家の形は変わっていない。しかし、近年の米国型の金融資本とグローバル化の影響で、国民のモラルと倫理が失われつつある。

その結果、拝金主義が横行し、「モノよりカネ」という傾向が強くなってしまった。

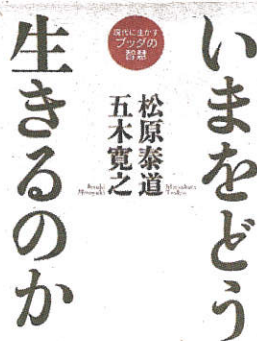
経営者や政治家がトップたる責任をはき違え、モラルや倫理が後退してしまったと、著者は、政財官、評論家、マスコミに至るまで矛先を向け、容赦なく実名で一刀両断する。

本書は、既刊『亡国から再生へ』に加筆修正し、「改めて問う、小泉一竹中路線とは何だったのか」の小論を加え、改題、文庫化した。

70冊以上の経済小説を世に出した著者による警世の書である。

▷620円、徳間文庫

いまをどう生きるのか



松原泰道・五木寛之著

ブッダの生涯から学ぶ人生論

ブッダ最後の旅の足跡をたどるためにインドに赴いた作家、五木寛之。100歳を超えてなお、ブッダの教えをいまに生かすために旺盛な活動を続ける仏教家、松原泰道。生まれ育った環境も歩いてきた道も違う2人が、ブッダの生涯を通して、人間の生き方について語り合った。

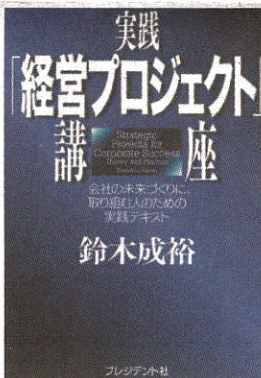
晩年に3つの悲劇に襲われながらも、「すべてのものは移りゆく。怠らず努めよ」と説いたブッダの言葉には、よりよく生きていくための心が凝縮されている。

本書は、仏門に生き、学問を究め、人々と語り、思索を深めてきた101歳の松原泰道と、76歳の五木寛之の「よりよく生き、よりよく死ぬために」語った「完熟の人生論」である。

激動する社会を生き抜くヒントが見つかりそうだ。

▷1500円、致知出版社

実践「経営プロジェクト」講座 鈴木成裕著



成否を分けるリーダーの実力

企業が勝ち残るには、他社が手につかない分野への挑戦やM&A（合併・買収）など、さまざまな手法があげられる。しかし、そうした新しいプロジェクトを打ち出しても成果は容易に得られない。

原因は何か。リーダーの力量不足、構想立案の甘さ、長期的視野の欠如…。本書はこれら問題点を排除しながら、新プロジェクトを成功に導くための手法を事例研究もまじえて明らかにする。

特に著者が強調しているのは「リーダーがプロジェクトの成否を決める」という点。統率力をはじめ行動力や交渉力など「実力」が不可欠と論じる。

厳しい経営環境を乗り越え、企業の未来をつくろうと意欲的な構想を温めている若きリーダーやマネジメント向けの一冊といえる。

▷1680円、プレジデント社

童夢へ 林みのる著



自動車レースの重鎮の自叙伝

ホンダがF1世界選手権からの撤退を表明したほか、三菱自動車がダカールラリーの活動終了を発表するなど、モータースポーツの世界が急速に冷え込んでいる。それでも内外で多彩なカテゴリーのレースが間もなく開幕する。

それを支えているのは、ニューマシン開発の傍らスポンサー獲得に追われる参加者の情熱にほかならない。著者もそんな一人。モータースポーツファンなら誰でも知っている業界の重鎮で、ル・マン24時間レースの常連であるレーシングカー・コンストラクター（製造者）、童夢（滋賀県米原市）の代表者である。

この世界に身を投じて40年余。マシン製作とレースに明け暮れた半生を振り返る。「情熱に操られるままに生き抜いてきた」青春時代のすがすがしさが伝わる一冊だ。

▷1575円、幻冬舎

モラルや倫理後退、警世の書

というから、ラリー037はやや非力ながら軽量なボディと機敏なハンドリングによって、それを補った。それは戦歴にも表われていて、ラリー037がメイクス・チャンピオンをランチャへもたらした1983年シーズンに同車が勝利したのは、雪が少なく乾燥路がほとんどだったモンテカルロ、さらにツール・ド・コルス、アクロポリス、ニュージーランド、サンレモなどで、ターマック・ラリーで強みを発揮するいっぽうで、低μ路では他の4WDマシンの後塵を拝していたことがわかる。84年シーズンに入ると12戦中でクワトロが7勝、プジョー205が3勝と、これら両横綱マシーンがシーンを席捲し、ラリー037はツール・ド・コルスでマルク・アレンが1勝を挙げるのがやっとという状態となった。ランチャは84年から、スーパーチャージャーとターボを組み合わせたフルタイム4WDのデルタS4の開発を本格化させ、85年の最終戦RACラリーでデビュー・ウィンを飾り、



86年初戦のモンテでも連勝する。どちらも若手のヘンリ・トイヴォネンの手によるものだったが、その彼は86年ツール・ド・コルスでデルタS4に乗って事故死し、それがグループB時代の幕引きの一因となったことは周知の通りだ。

ラリー037は、1950年代初頭にジョアッキー・コロンの跡を継いでフェラーリのV12気筒エンジンを設計したことで有名なアウレリオ・ランプレディが長を務めていたアバルトで開発されたグループBラリーカーであ

る。本書はそのランプレディの下で開発に携わったセルジオ・リモーネに直接取材し、彼から多量の資料提供を受けた上で編まれているだけに、瞠目すべき事実や写真などが少なくない。リモーネによれば、当初、ラリー037を開発する際に、チェザレ・フィオリオらのフィアット・ラリーチームはターボ派であるため「ベータ・モンテカルロ」などを独自開発したのに対して、ランプレディは強硬なスーパーチャージャー派(とくにルーツ型)で、未来のラリー037のエンジンにスーパーチャ

ジャーを組み合わせることを、誰にも相談することなく独断で決定して開発を進めたという。またランチャがデルタS4へ主力車種を移行させる以前に、ラリー037の4WDモデルが研究されていたという事実も詳述されていて興味深かった。WRCにおける1982~86年シーズンの詳細な参戦記録が、本書の最大の魅力である。(HO)

新刊案内

01 童夢へ

林みのる 著

幻冬舎刊、13×19cm

324ページ、定価1500円(税別)

日本を代表するレーシングカー・コンストラクター、童夢の創業者が自らの半生を語る自叙伝。コーリン・チャプマンに憧れレーシングカー製作を夢見て鈴鹿詣でを繰り返す中で、かの浮谷東次郎と出会い、初めて扱うFRPに悪戦苦闘しながらホンダS600の空力チューニングを完成。見事レースで優勝を遂げるも、ほどなくして浮谷の事故死に遭遇する。個性的な人々が行き交う中で、黎明期の日本モータースポーツ・シーンに立ち向かう波瀾万丈のストーリーは小説のようでもある。



02 日産V型6気筒エンジンの進化

瀬名智和 著

グランプリ出版刊、15×21cm

208ページ、定価2000円(税別)

高級セダンのティアナからスポーツカーのフェアレディZまでカバー、フランスのルノーにも供給されるVQ型。そしてそれをベースに高性能化を図ったニッサンGT-R用のVR38型も含め、日産自動車は幅広い車種にV6エンジンを用いている。そのルーツとなった日本初のV6ユニット、VG型を端緒とする四半世紀に及ぶ進化の歴史を追う。冒頭では開発から市販に至る一般的なエンジン開発のプロセスについて紹介、また同時期にV6と直6が並存した理由についても述べられている。



03 カワサキ マッハ 技術者が語る

—2サイクル3気筒車の開発史

小関和夫 著

三樹書房刊、19×26.5cm

152ページ、定価2800円(税別)

空冷2ストローク直列3気筒という独特なレイアウトの、馬力はあるが扱いにくいエンジンを華奢なフレームに搭載。1970年代初頭に「H2」と呼ばれる750ccモデルでは最高速203km/h、0-400m:12.0秒という動力性能を標榜した稀代のじゃや馬、カワサキ・マッハ。エンジンを中心とした開発ストーリーに、カラー写真をふんだんに使ったバリエーション紹介やカタログのリプリント、レーシングヒストリーを組み合わせている。



04 自動車部品産業

これから起こる7つの大潮流

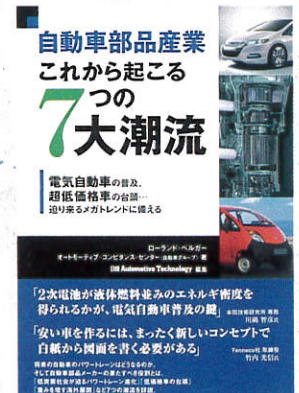
ローランド・ベルガー オートモーティブ・コンピタンス・センター 著

日経Automotive Technology 編

15×21cm、266ページ

定価2800円(税別)

低燃費とエミッション性能がますます重視され、新興国の台頭に伴ないグローバル化が勢いを増す中で、自動車産業、そして周辺の部品産業はどう対処していくべきか。この分野のプロフェッショナルを対象に、自動車産業のコンサルティング・グループが指針を示した一冊。経営という観点から現在の業界の姿が描かれており、自動車趣味人にとっても興味深い内容だ。



洋書に関する問い合わせは下記他有名書店まで。なお洋書の価格は変動する場合があります。
 嶋田洋書: 〒107-0062 東京都港区南青山5-5-25 T・PLACEビル1F(Tel.03-3407-3863)
 北斗通商: 〒164-0013 東京都中野区弥生町3-34-8 TKビル5F(Tel.03-3370-5221)
 リンドバーク: 〒158-0086 東京都世田谷区尾山台2-29-20(Tel.0120-444-042)

フェアレディZロードスターのオフィシャル・デザイン画ネットに流出!

ホットデオート

2009

3

定価 320円

緊急特報!

次期アクセラ・ターボ ジュネーブショーに降臨

最高速 322km/h

レクサス LF-A

見果てぬ地上の夢

豊田章男トヨタ次期社長の

隠された極秘ミッション

フェアレディZ vs

スカイラインクーペ>-R

本気で買うぞ!

ホンダ・インサイト

日本GTカー伝説

NEWレクサスRX

とライバル

心躍る第一報 RXの後継車

SCOOP
特集



ROAD TEST

- ロードスター
- ブーンルミナス&パソセット
- アウディA6



- R35GT-Rの中古車は買い?
- デトロイトショー総ざらえ
- ポルシェのどこが凄いのか?

- ニッポンの旧車事情
- エレクトリック・ドライブの基礎知識

生誕20周年記念特集
レガシィの遺伝子

新装オープン!
第3弾!

HA ライブラリー

HOLIDAYAUTO LIBRARY

クルマ好きに オススメの珠玉の コレクションを紹介...

このコーナーで紹介してほしい書籍や音楽、映画やDVDなどのリクエストをお待ちしています。投稿も歓迎します。ご希望の方は編集部「HAライブラリー」係まで、ハガキまたはファクスでお知らせください。



▲著者の林みのる氏は株式会社童夢の代表取締役社長。日本自動車工業会の会長も務めている。1945年7月16日生まれなので、63歳。童夢の歴史については、以下のホームページの「HOME MUSEUM」が詳しい
<http://www.dome.co.jp/>

今月のイチ押し!



レースに魅せられていく
生き様を見事に描写

「童夢へ」

林みのる：著
2009年1月10日、第1刷発行

■価格：1500円(税別)

幻冬舎
☎03-5411-6222

くじ付年賀ハガキなど 初耳エピソードも満載

モータースポーツ好きなら、きっとこの名前を知っているはずだ。その人とは「林みのる」である。アツ、この人はル・マン24時間レースに積極的に挑み続けている「童夢」の総帥だ。そこに思い至った人は、ピンポーン、大当たりである。

童夢は、わが国のレーシングカー・コンストラクターの草分け的な存在だ。これまでにスーパーカーの童夢・零を進化させたR180、グループCカーのトヨタ童夢84Cやトヨタ

BOOK

「苦難の歴史・国産車づくりへの挑戦」

桂木洋二：著 2100円 グランプリ出版 ☎03-3235-3531

欧米に大きく遅れてスタートした国産車づくりが、いかに困難を極めたものだったかを、主に太平洋戦争終了以前の日本の自動車メーカーの活動について記載した1冊。日本で自動車界が動き始めた明治時代から、トヨタ・日産の登場までを時代を追って解説している。

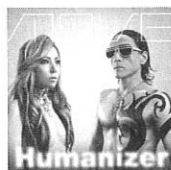


MUSIC

MOVE「Humanizer」3150円

エイベックス・チューン AVCT-10169 全14曲

1997年にハイパーチューンの旗手として登場してから12年、常に第一線で活躍しているサウンドは今なお進化形だ。3年ぶり9作目となる今回のアルバムでは原点回帰の「ハイパー 4打ちダンスビート」がテーマ。タイアップ曲も5曲収録。



スケルトン・エイト・バンビーン「青春の歌」3000/2600円(初回限定盤/通常盤)ユニバーサルミュージック UPCH-29024/20141 全12曲

待望のファーストアルバム。人気タレント、ベッキーが出演した化粧品のCM曲に使われていたシングル「夏恋」が20万DLのヒットとなり一躍ブレイク。初回限定盤にはデビュー曲「あらうんどTHEワールド」など5曲のクリップを収録したDVD付き。



西寺実「ふぞろいのロックたち其之壱」3000円

ユニバーサルミュージック UICZ-4192 全11曲 2/11発売

アースシェイカーの西田昌史、SHOW-YAの寺田恵子、ラウドネスの二井原実から1文字ずつ取った新ユニットが、この西寺実(にしでらみのる)。内容は1970～80年代のロックの名曲カバーアルバムの第1弾。2月10日からのライブも見逃さない!



ビリー・バンバン「セカンド・ポロネーズ」2300円

ユニバーサルミュージック UICZ-4191 全7曲

1969年「白いブランコ」のデビューから一貫して愛をテーマに感動を届けてくれる彼ら。デビュー 40周年となる本作品も、兄弟デュオならではのハーモニーで癒してくれる。先行シングルとなった焼酎いちいちこのCM曲「また君に恋してる」も収録。



88C・Vなどの傑作を生み出し、サーキットに旋風を巻き起こした。また、フォーミュラカーにも名作が多く、F1でも設計した。

レースでの活躍は枚挙にいとまがないが、林みのるの個人のプロフィールについて知っている人は、実はあまりいないだろう。ましてや童夢設立の前の話となると、わからないことばかりである。

その謎の人、林みのるが童夢を創設するまでの28年間の人生を語り、それを1冊の本にまとめた。「童夢へ」と題された本だ。

これが面白い。この両親との話や子どものころの秘話がつづり書かれている。中学時代はラジオ部に入りオーディオに熱中したこと、オートバイとのなれ初めなどが語られ、登場する人物も驚くほど多い。

従兄の林将一が林みのるに与えた影響、後にトヨタのエースとなる鮎子田寛との友情、伝説のレーサー、浮谷東次郎との出会いやカラスと呼ばれるレーシングカーの製作など、今まで知られていなかったことが細かく書かれている。

60年代は日本のレース界が大きく

盛り上がった時期だ。林みのるも野望を抱いて身を投じた。カラスを進化させたマクランサの誕生秘話や製コンストラクターの興隆などの話は、クルマ好きならググッと引き込まれてしまうだろう。

どうやら「童夢から」と題された続編も用意されているようだ。が、ガムシヤラに突き進んだ青春時代の林みのるのエピソードを通して真の姿を知ってほしい。行間から若さとはしる生きさま、レーシングカー造りにかける情熱と真摯な姿勢が感じ取れるはずである。(片岡英明)